

平成 25 年 7 月 19 日 新潟市地域包括支援センター西川

にしかわ・ねっと

～保健医療福祉～

にしかわ・ねっとは新潟市地域包括支援センター西川の高齢者等の支援のためのネットワーク作り活動です

西川地域の保健医療福祉関係者話し合いの場として、地域の居宅介護支援事業所の協力のもと、昨年からはスタートしたにしかわ・ねっと～保健医療福祉。このたびは在宅医療をテーマに開催いたしました。概要をご報告いたします。

参加者 計 22 名

開業医 1 名、病院医師 1 名、居宅ケアマネ 7 名、施設ケアマネ 1 名、訪問看護ステーション管理者 1 名、病院医療相談員 1 名、デイサービス 2 名（相談員、看護師）、特養園長 1 名、小規模管理者 1 名、西蒲区役所高齢介護係 2 名、巻地域保健福祉センター 2 名、包括 2 名
話題提供「西川地域の在宅医療について」 和田内科医院 和田研先生より

<概要>

- 課題多い・・・国民の病院志向強い。家族形態の変化。
 1. 在宅治療
- 在宅医療 病院と同等の医療を行い、患者が一日も早く社会復帰できるように治療。
 2. 在宅ケア
 - 介護が中心。疾患は固定した高齢者が多い。
 - 現在は 2 が圧倒的に多い。
- 在宅医療で先生が行っていること
 1. 診察・・・栄養状態、バイタルサイン、血液検査等、臓器不全のチェック、対応。
 2. 患者との対話。話の端々から病状を読み取る。
 3. 家族から情報。
- 在宅医療をすすめる対象→疾患が固定していて家族の協力があるケース。

現在の在宅医療は家族の協力なくして成立しない。
- 在宅医療も病院が行うもの、診療所が行うもの、いろいろな形があつてよい。
- 今後は多職種と連携して在宅医療を進めていきたい。

参加者の情報交換（太字は具体的な要望です）

【連携】

・**急性期を終え退院の利用者、看護サマリーの情報が必要。(ケアマネへの要望)**

デイサービスやショートステイなどサービス事業所に十分な情報が来ないため、利用者を家に帰してしまうこともある。

- ・ケアマネ、事業所と医師との連絡は、訪問看護師をとおして行うのが中心。
- ・サービス担当者会議に医師は出席できず、看護師と話す機会しかないが、それでよいのかと思うケースもある。
- ・いろいろな問題を話し合っ互いに納得することが必要だが、忙しくて集まる時間がない。

・**医師は他職種にどうあってほしいと思っているのか、発信して欲しい。**

- ・訪問看護師も、大きい病院医師は連絡とりづらい
- ・在宅医療でもいざとなったら入院できることも必要。
- ・1人の患者が複数の医療機関にかかっている場合。

訪問看護、ケアマネ・・・主治医意見書、訪問看護指示書を依頼できるのは1箇所だけで、医療情報の把握が困難。

医師・・・医師同士のやりとりで内服薬をすべて把握するのは難しい。

受診する科が専門分化している。総合診療科が必要となってくるであろう。

・**他科受診や内服薬の情報を訪問看護師やケアマネが持っていれば提供して欲しい。**

- ・チームでの話し合いのタイミング。たとえば看取りに際したときなど、本人家族が納得して過ごせるよう支援するために、話し合いが必要か。
- ・本人や家族への説明の内容について、第三者から情報をもらおうとズレが生じる場合がある。本人や家族の同意が基本であるが、ケアマネ等支援者も同じ場で話を聞けるとよい。
- ・家族、医師、ケアマネで、具合が悪くなる前から今後の見通しや悪化時の対応等、共有できるとよいし、そうすることで家族の協力を得やすくなる。

【看取り】

- ・小規模の利用者はそれぞれの利用者にそれぞれ主治医がいる。本人や家族が小規模での看取りを希望する場合があります、そのような時はどう主治医に相談すればよいか。今後は訪問看護を導入しながらやっていく動きもある。
- ・看取りについて、事前に家族の意思確認が必要。トラブルにならないよう、書類はしっかり取っておく。(どこまでの治療、処置を行うか)
- ・急変時気持ちが揺らぐことがある
- ・元気なうちから最期のイメージ、希望を、利用者は伝えていく、支援者は聴いていくことが必要。

【住民】

- ・気軽に相談できる、必要な時に来てくれる医師が良い。
- ・住民の立場として、在宅医療を選択する際にどのように医師を選択したらよいか不安がある。どの医師が在宅医療をしているか、本人家族の意向をどれだけ聞いてくださるか、等々。
- ・住民の病院志向を変えていくのは、現在は、身近で死んでいく人を見ることが少なくなっているため難しく時間がかかる。在宅での看取りは、人が死ぬとはどういうことか、自分たちがどう生きていくのか考える機会にはなる。

*****参加者の感想*****

- ・多職種で情報交換できてよかった。
- ・医師と同じ場で意見を聞く機会が少ないのでよかった。
- ・和田先生のお考えを聞くことができよかった。

お忙しい中、参加していただき、ありがとうございました。

次回のにしかわ・ねっと～保健医療福祉は

10月11日(金)19:00～西川健康センター和室にて開催予定です。

小林 裕介 田地野 亜紀子